

2019 年度日本・中国青年親善交流事業（第 41 回）

概 要

日本・中国青年親善交流事業は、日本青年と中国青年との交流を通じて青年相互の友好と理解を促進し、青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会でリーダーシップを発揮できる青年を育成するとともに、青年による事業終了後の青少年健全育成活動等への寄与を目的として、日本・中国両国政府が共同で実施する。

2019 年度（第 41 回）事業では、10 月～11 月に日本青年等を中国に派遣するとともに、8 月～9 月に中国青年等を日本に招へいすることとしている。

＜日本青年中国派遣の概要＞

（注）本概要は 2019 年度政府予算案に基づく 2019 年 1 月時点の予定。
日程は、今後変更することがある。

1 派遣プログラム

（1）訪問日程

2019 年 10 月 29 日（火）から 11 月 9 日（土）までの 12 日間

（2）派遣人員

団長 1 人、副団長 2 人、渉外 2 人及び参加青年 25 人の計 30 人

（3）中国における活動

- ・ディスカッション、日本文化の紹介、ホームステイ等を通じた中国の青年等との交流
- ・産業、文化、教育、環境、社会福祉等の諸事情の関連施設の訪問 等

（4）渡航手段

渡航に用いる交通手段は、航空機とする。

※派遣プログラムや招へいプログラムの夕食交流会にて中国招へい青年と交流・ディスカッションの機会有り

【参考】中国青年招へいプログラム

招へい期間：2019 年 8 月 22 日（木）から 9 月 2 日（月）までの 12 日間

招へい青年数：30 人程度（団長、副団長を含む）

2 研 修

青年中国派遣の効果を最大限に高めるため、参加青年に対して以下の研修を実施する（東京都内又は隣接県で合宿形式により実施）。

（1）事前研修

ア 時期及び期間

2019 年 7 月 2 日（火）から 7 月 6 日（土）までの 5 日間（4 泊 5 日）

イ 研修目的

事業の趣旨、内容及び中国についての理解を深め、必要な諸準備を行うとともに、参加青年としての心構えや中国における活動の基本を習得、併せて出発前研修までの自主研修期間の準備と目標を明確にする。

（2）出発前研修

ア 時期及び期間

2019 年 10 月 27 日（日）、28 日（月）の 2 日間（10 月 27 日から出発日である 29 日までの間、2 泊する。）

イ 研修目的

中国における諸活動の最終準備と確認等を行う。

（3）帰国後研修

ア 時期及び期間

2019 年 11 月 10 日（日）、11 日（月）の 2 日間（帰国日である 11 月 9 日から 2 泊する。）

イ 研修目的

事業成果を取りまとめ、その成果を踏まえた事業終了後の諸活動への理解を深める。

3 構成員の任務と選任等

(1) 任 務

- ア 団長は、派遣団を代表するとともに、参加青年を指導し、派遣団の活動を統括する。
- イ 副団長は、団長を補佐し、団長に事故があるときは、その職務を代行する。
- ウ 渉外は、団長の指揮に従い、団務を分担するとともに、渉外及び通訳を担当する。
- エ 参加青年は、団長の指揮に従い、団体行動の下に、研修及び派遣プログラムに参加し、団務を分担する。
また、事前研修後の自主研修期間にあつては、中国についての知識や語学能力の向上に励むとともに、我が国の歴史や社会情勢の認識を深めるなど、積極的に派遣プログラムの準備に努めなければならない。
- オ 団長、副団長、渉外及び 参加青年は、帰国後、活動報告書を定められた期限内に内閣府に提出する。
- カ 参加青年は、事業参加後およそ1年後、5年後、10年後に内閣府が行うフォローアップ調査（活動状況等）に回答する。

(2) 選任等

- ア 団長、副団長及び渉外
内閣府が任命又は委嘱する。
- イ 参加青年
都道府県知事（青年国際交流主管課(室)が教育委員会に属する場合には、教育長）又は全国的組織を持つ青少年団体等の代表者から第1次選考を経て推薦された者の中から、内閣府が選考し、決定する。

4 経 費

- (1) 事業の実施のための経費（(2) 及び (3) に掲げるものを除く。）は、出発前研修に参加するための国内上京旅費及び帰国後研修終了後の国内帰郷旅費（東京23区内在住の者を除く。）を含め、内閣府又は中国が負担する。
- (2) 次に掲げる経費は、参加青年本人の負担とし、参加費として参加青年から徴収する。（10万円程度）
 - ア 渡航に要する往復航空運賃の一部（※1）
 - イ 事前研修、出発前研修及び帰国後研修における宿泊料等及び食費
 - ウ 旅行保険料等
- (3) その他、以下の経費についても、参加青年本人の負担とする。
 - ア 事前研修に参加するための往復旅費
 - イ 旅券発行手数料、予防接種料
 - ウ 疾病又は傷害の治療費用及びそれに付随する費用
 - エ 小遣いその他の個人の用に必要な経費
 - オ 日本における事後活動組織である日本青年国際交流機構への入会金（3万円）（※2）

- （※1） 往復航空券については、事前研修終了後、参加青年として決定された者に対して、発券作業が行われる。
発券後、事業参加を辞退し、航空券のキャンセル料が発生する場合、キャンセル料は青年の一部負担する金額の範囲内で青年が負担するものとする。
- （※2） 内閣府の青年国際交流事業に参加した青年等が自主的に組織している事後活動組織「日本青年国際交流機構」では、会員たちが事業参加の経験とネットワークを生かしながら、様々な形で社会に携わる活動を行っている。

平成30年度 日本・中国青年親善交流事業(日本青年中国派遣) 行動日程

	月日	活動内容	滞在都市
1	10月23日 (火)	東京(羽田)→北京 史家胡同博物館 視察 呂偉中華全国青年連合会副秘書長主催訪日既参加青年との交流夕食会	東京 北京
2	10月24日 (水)	李柯勇中華全国青年連合会副主席表敬訪問 張季風中国社会科学院日本研究所副所長による講座:『「十九大」と中国における経済社会総合発展及び展望』 KrSpace(Krスペース) 視察 ・日中青年による起業に関する交流会 伍偉中華全国青年連合会副秘書長主催歓迎会	
3	10月25日 (木)	中国人民抗日戦争記念館 視察 北京第二外国語学院にて「日中平和友好条約締結40周年記念フォーラムー日中青年友好フォーラム」 ・団長挨拶 ・北京第二外国語学院教師代表によるスピーチ ・日中両国青年によるスピーチ ・グループディスカッション ・キャンパスツアー(グループ別) ・大学構内学生食堂にて学生との夕食交流	
4	10月26日 (金)	故宮博物院 視察 在中国日本国大使館表敬訪問 ・最近の日中関係と中国情勢について講義 ・質疑応答 中国国際青年交流センターにて中国食文化体験(餃子づくり) 北京→西安(航空機)	西安
5	10月27日 (土)	秦始皇帝陵博物院(兵馬俑) 視察 西安国際港務区規画館 視察 ・中西部陸港金融小鎮 視察 ・西安港中欧班列運営センター 視察 ・西安鐵路コンテナセンター 視察(バス車内) 西安外国語大学にてホームステイマッチング ・日中青年座談会	
6	10月28日 (日)	西安外国語大学にてホームステイ懇談会 ・日中青年によるホームステイ所感の発表 ・団長挨拶 ・中国伝統文化講座 秦腔(地方劇)講義と体験 ・陝西省青年合唱団による合唱披露 ・大学構内学生食堂にて学生との夕食交流 西安→宝鶏(高速鉄道)	宝鶏
7	10月29日 (月)	宝鶏市渭濱区インターネット産業パーク 視察 ・日中青年起業経験交流会 東嶺コミュニティと青年の宿場クラブ 視察 ・宝鶏市金台区陳倉鎮東嶺村 視察 ・金台区青年社会組織青少年社会養成インキュベーションセンター 視察 ・東嶺慧佳幼稚園にて小学生と交流 宝鶏文理学院 視察 ・キャンパスツアー(グループ別) ・サークル活動見学・体験 馬贊宝鶏市人民政府市委常務副市長主催歓迎会	
8	10月30日 (火)	宝鶏市陳倉区坪頭鎮にて貧困支援活動 視察 宝鶏工作機械グループ有限公司 視察 ・「一帯一路」構想座談会 宝鶏→西安(高速鉄道)	西安
9	10月31日 (水)	西安市高新技術産業開発区 視察 西安市コーヒー起業基地インキュベータ 視察 西安→成都(高速鉄道)	成都
10	11月1日 (木)	成都理工大学にて「アジア文化と青年フォーラム」 ・伝統演劇「川劇」講義と体験、史料修復に関する講義及び修復作業実演 ・日本青年よりプレゼンテーション ・昼食 ・サークル活動見学・体験 ・大学歴史陳列館 視察 ・地質災害防止・地質環境保護の国家重点実験室 視察 ・青年学生代表座談会	
11	11月2日 (金)	成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地 視察 成都青年之家1号旗艦店にて青年ボランティア活動座談会 張栄四川省青年連合会主席主催歓送会	
12	11月3日 (祝・土)	成都→東京(成田)	東京